花をめで、木を味わい、精神に触れる

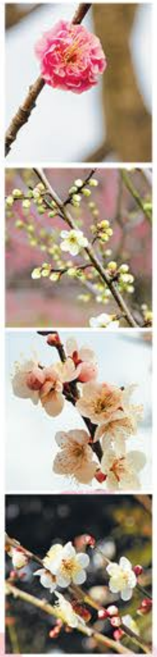
水戸の梅まつりを再発見

水戸市と周辺では、同市の偕楽園と弘道館で開催中の水戸の梅まつりに訪れる人のにぎわいが、春の到来を告げている。全国に知られ、本県の多くの人が訪ねたことがあるであろうまつりだが、楽しみの幅は広く、1度ではなかなか満喫しきれない。今回は、会場内で来園者のガイドに当たる市民観光ボランティアの菊池みどりさんと長谷川富美枝さんのアドバイスをもとに、「花」「木」「精神」という切り口で、楽しみ方をまとめてみた。今年も出かけてみませんか？

咲きそろう姿もよし、個々に向き合うとなおよし

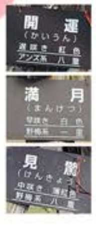
偕楽園には、約100種3000本の梅の木がある。まず全景を楽しんだら、一本一本、一輪一輪に目を向けてみて。花の形や色はもちろん、香りも実にさまざま。お気に入りの1本、1輪を見つけるのも楽しい。

左写真一番上の「八重寒紅」は、濃い紅色で八重咲き。ボタンの花のような華やかさだ。上から2番目は、「水戸の六名木」の一つの「月影」。水戸の六名木は、園内にあるすべての品種を調査、研究し、花の形・香り・色などが特に優れている6品種を選んだもの。清白色で、薄い緑色のつぼみも美しい。上から3番目は、同じ枝に白色とピンク色の花を咲かせていた梅。花は、日光の当たり方によっても、さまざまな表情を見せてくれる。



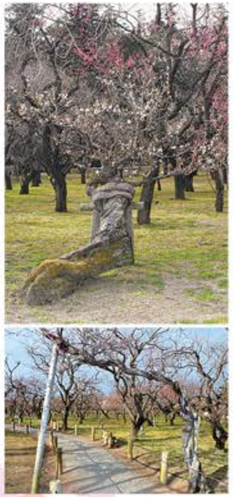
梅の木の名称を楽しむのも一興。園内の木のほとんどには、名称を記した札＝右写真＝が付いている。「開運」は、縁起の良さを感じさせる観光客に人気の1本。「満月」「見驚（けんきょう）」「思いのまま」など、思わず木の前で立ち止まり、その由来に思いをはせたくなる名称も多い。

自分のお気に入りの一角や花を見つけておくと、再訪する楽しみもできる。ガイドでは、紅梅3本が並ぶ一角を「水戸の三人官女」と呼んで紹介することも。



木の幹に注目　感動を呼ぶ古木のたくましさ

木の幹や枝ぶりに注目することでも、楽しみは広がる。偕楽園の梅は、古木が多いことが特長。幹がねじ曲がって、中が空洞になっていたり、樹皮一枚で命を保っているものも。古木がつぼみを付け、花を咲かせる姿は感動的だ。



左写真上の梅は、ねじりを重ねて、身を地面すれすれにまで傾けてしまっているが、しっかりと花を付けている。下の写真は細身の古木。徐々に通路側に身を倒し、やむなく反対側で支柱に支えられる形になった。名付けて〝古木のアーチ〟。

これら以外にも、幹の割れ目から先が見通せるもの、小枝のように細くするすると伸びた幹から花を咲かせているものもある。

幹のねじれについては、雑学もある。ねじれる方向は、上から見て時計と反対回りと決まっているそうだ。理由は定かではないという。

ただし、中にはあまのじゃくで、時計回りにねじる幹もある。偕楽園内にも数本見つけることができる。

「陰」と「陽」で、水戸藩主斉昭公の精神を感ず

偕楽園は、厳しい文武修業の場である弘道館に対し、心身を休めるための場として、1842年に水戸藩主徳川斉昭が造園した。園内を巡れば、斉昭公の思いを感じられる。

偕楽園は、「陰」と「陽」の世界からなる「陰陽思想」に基づいて設計されている。

斉昭は偕楽園記の中で、「陰と陽の相反するものの調和によって万物は健全育成する」という原理に基づき、人間も屈伸して心の調和を図り、修養につとめよと説いた。

表門から入って梅林に向かうコースを歩くことで、斉昭の意図した本来の楽しみ方が味わえる。表門から入った後のエリアが「陰」。孟宗竹が茂る林＝右写真＝を抜けると、心を清めるという意味のある吐玉泉＝下写真上＝がある。中門を抜けると一転、ここからは「陽」のエリア。日が差し、今の時期なら梅の花の美しさが飛び込んでくる。

千波湖方面に見晴らしのきく「仙奕台（せんえきだい）」には、石製の将棋盤や碁盤＝同下＝がある。どちらも開園当時からのものなので、今よりはるかに大きかったという千波湖を眺めながら、寛容な「陽」の心持ちで次の一手を考えた様子が想像される。

「へえ～」と納得　偕楽雑学

竹垣にも注目を　園内には竹垣が多くあるが、よくみると、高さや竹の組み方がさまざま。写真の竹垣は、その名も「偕楽園垣」。一般的な四つ目垣と異なり、結束方法が特有という。等間隔で並ぶ竹が美しく、確かな造園技術が光る。また、竹林周辺にある萩垣は、秋に園内で咲くハギの枝を使ったもの。こちらも美しい。

六名木は六角形で　花や香りなどに特に優れた園内の6種の梅の木は、「水戸の六名木」と呼ばれる。それを巡りながら散策する人も多い。六名木の周囲には六角形の竹垣がしてあるので見つけやすい。

ベンチの前に名花？　梅林の通路にはベンチが設置されているが、菊池さんによると、座って眺めた先に、見事な古木があったり、見上げて観賞するのにぴったりの花が咲いていたりと、「座って観賞を」と願っているいうような景色が広がっていることが多いという。試してみて。

フェロモンで害虫防除　園内の木に下がる赤い針金のようなもの、これはフェロモン剤を利用した害虫防除道具の一つ。針金に塗り付けたフェロモンに雄が呼び寄せられるが、雌がいないので交尾できず、害虫が増えないという仕組み。

第124回 水戸の梅まつり

〈期間〉　～3月29日
〈会場〉　偕楽園・弘道館

期間中の県民の偕楽園入園料は、大人300円、小中学生と70歳以上は150円。

今年のトピック　今年の水戸の梅まつりは、偕楽園の有料化後初のものとなる。通常、有料なのは、茨城県外在住者だけだったが、まつり期間中は茨城県民も有料となる。入場料金は、大人300円、小中学生と70歳以上は150円。料金所は、偕楽園の東門、南門、好文亭表門、叶玉泉下のほか、臨時券売所も設けられる。

関連トピックとしては、先日、弘道館の近くに大手門＝写真＝が完成したばかり。ケヤキやヒノキを材料に造られたもので、高さ約13㍍、幅約17㍍。巨大な大扉が見どころだ。

梅まつりの楽しみが何倍にも

市民観光ボランティア歴史アドバイザー水戸

菊池さんと長谷川さんが所属する市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」のメンバーたちは、水戸の梅まつりの期間中、偕楽園と弘道館に常駐して案内の依頼を受け付けている。受け付け時間は午前10時から午後3時半まで。ガイドの料金は無料だ。

案内の内容はお任せでもいいし、要望を伝えてもいい。「地元の方も歓迎。一緒に楽しみましょう」と菊池さん。長谷川さんは「雨にぬれた梅園もしっとりとしてきれい。魅力は日々違います」。案内時間は、混雑時は30～40分程度。

問い合わせは、水戸観光コンベンション協会☎029・224・0441。

イベントごよみ

期間中に偕楽園と周辺で開かれる催しのうち、主なものを紹介。(時)は開催時間、(場)は開催場所、(料)は参加費の意味です。内容は変更の場合あり

2月21・22日
▽水戸の新酒まつり(時)16時～19時半（22日は15時から）(場)水戸東照宮

2月22日
▽高校生野点茶会（常磐大学高等学校）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円
▽みとちゃんお誕生会(時)10時～15時(場)偕楽園田鶴鳴梅林
▽武道演武（水戸東武館）(時)10時～11時半(場)弘道館対試場
▽田谷の棒術（杖友会）(時)13時～14時(場)弘道館対試場

2月23日
▽野点茶会（石州流）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円
▽みとちゃんお誕生会(時)10時～15時(場)偕楽園田鶴鳴梅林
▽水戸のひな流し（常陸和紙人形会）(時)11時～正午(場)偕楽園吐玉泉下

2月29日
▽歴代水戸の梅むすめ・梅大使の集い(時)10時～正午(場)偕楽園見晴広場

3月1日
▽大撮影会と写真コンテスト（県カメラ商組合）(時)10時～15時(場)偕楽園梅林・見晴広場
▽野点茶会（裏千家）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円
▽観梅着物デイ(時)10時～16時(場)偕楽園見晴広場

3月6～8日
▽全国梅酒まつりin水戸(時)10時～16時（8日は15時まで）(場)常磐神社

3月7日
▽吟詠剣詩舞（県吟詠剣詩舞総連盟）(時)10時半～11時半(場)弘道館対試場
▽五軒香梅ひな流し（ふぁいぶたうんコミュニティ）(時)11時～正午(場)偕楽園吐玉泉下
▽詩舞（水戸三中）(時)11時半～正午(場)弘道館対試場
▽夜・梅・祭2020(時)18時～21時(場)弘道館

3月8日
▽野点茶会（表千家）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円

3月13日
▽観梅俳句大会（ひたち野社）(時)10時～15時(場)県立歴史館講堂

3月14日
▽弘道館公開講座（水戸史学研さん会吉田塾）(時)13時半～15時半(場)弘道館正庁
▽夜・梅・祭2020(時)18時～21時(場)偕楽園

3月15日
▽野点茶会（遠州流）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円

3月21日
▽高校生野点茶会（水城高）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円
▽水戸納豆早食い世界大会（出場は事前申し込み）(時)10時～13時(場)偕楽園吐玉泉下広場

3月22日
▽野点茶会（江戸千家）(時)10時～15時(場)偕楽園見晴広場(料)300円

とも
偕に
楽しもうぞ
by斉昭

デザイン画　フカ田サトミ